

人文社会科学部後援会事業実施報告

申請者氏名：井上淳生（人間文化学科 心理・人間科学メジャー 講師）

申請 No.：1-2

事業区分：学生の教育研究活動支援

対象学年：3年生5人

報告項目：井上淳生ゼミ合宿（2024年7月24日～25日、於：水戸市、城里町、鉾田市）

茨城県におけるフードロス対策の取組みに関する視察とインタビュー調査

報告内容：

ゼミ3年生を対象に、1年を通して「食に関わる調査研究プロジェクト」を実施している。これは、企画立案、調査計画策定・遂行、スケジュール管理、協力依頼、調整、折衝、各プロセスの記録など、知識生産に関わる一連の手続きを体験することで、卒論やその後の人生における課題設定・課題解決の力を養うことを目的としたプロジェクト型学習である。今年度はメンバー間での議論を通じてフードロスをテーマとしたプロジェクトを立ち上げた。その一環として、茨城県内で特徴的な取組みを展開する谷口農縁（水戸市）、城里町（ふれあいの里・ホロルの湯）、深作農園（鉾田市）での視察とインタビュー調査を実施した。訪問先の選定や依頼、インタビューは学生が主体となって行った。

今回訪れた谷口農縁、城里町、深作農園のいずれにおいても、単なる規格外農産物の有効活用を越えた、現代を生きる私たちの生活全般の見直しを視野に入れた取組みの一環として活動されていた。なかでも、谷口農縁では、資材の利活用や循環型の生活様式の提案などを、地域の方々との交流の中に組み込む工夫がされていた。また、宿泊先に選定した城里町ふれあいの里（城里町開発公社）は、県内外から訪れる宿泊客に、地元の生産者の協力のもとに考案した複数の料理を直営店舗で提供することや、体験イベントを打ち出すことで、城里町での宿泊・飲食をフードロス対策に直結させる取組みを展開していた。ふれあいの里訪問では、城里町農業政策課にご協力頂いたとともに茨城新聞社の取材も入った。

ご対応頂いた3か所の皆さんには、茨城大学の学生がフードロス対策に関心を持っていることを高く評価して頂いたとともに、今後の継続的な協力をご提案頂いた。今回の経験を素材としつつ、年度末のとりまとめに向けた考察や他の事例との比較を進めていく。

